



ーヒーブレイクの後、バンコク市と釜山市の主題発表がございます。発表時間は約20分です。その後質疑応答の時間を設け、意見交換と情報交換の時間とさせていただきます。時間は、1時間と決められておりますので、時間を守って下さるようお願い申し上げます。2都市の発表が終わりましたら、午前の会議は終わりです。

午後の会議は、13時から始まります。午後には、広州市と北九州市の発表の後、TPO創設計画案及び規約案に関する提案説明と議決の後、15分間コーヒーブレイクです。その後、本日の会議をまとめ、終わりに福岡市事務局よりご案内がございます。会議が終わりましたら、参加者の方々にはここ展示コンベンションセンターの1階にて開催されている国際観光博覧会を見学していただきます。国際観光博覧会場見学の後、本会議場の入り口にて記念撮影に参ります。

では、発言される時の留意事項について説明させていただきます。

本日は、4ヶ国語の同時通訳で会議を運営しますので、同時通訳の円滑な進行のために議長より指名された方は都市名と本人の氏名を告げてから、ゆっくり発言して下さるようお願い申し上げます。次は、マイクの使用方法についてご案内します。既に皆様の机の上にマイクの使用案内書が配布されていますが、マイクをご使用なさる際には、マイクの間にあるスイッチを1にして赤いランプが付いてからご発言下さい。発言が終わりましたらもう一度スイッチを押してください。そうすれば、OFFの状態になります。以上です。

## ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

それでは、本日参加して下さいました8ヶ国18都市よりお越しいただきました皆様をアルファベット順に紹介させていただきます。私がお名前をお呼びしましたら、その場でお立ちになってご挨拶願います。

まず、バンコク市の Chanchai Rohitasiri様、Prapim Borisuthi様、ongkoch Umnajwasusin様を紹介させていただきます。拍手は健康に良いと言われております。大きな拍手でお迎え下さい。釜山広域市の鄭聖圭様、李圭浩様、姜賢碩様、禹錫鳳様、次は、大連市よりお越しくださいました Li Bo Zhou様、Wang Qi Zhong様、Ren Xue Pu様、次は、福岡市よりお越しくださいました福本隆之様、波多江種治様、福松丈寛様、西山まゆみ様、原敏彦様、次は、遙々中国よりいらっしゃいました広州の Li Zhi Xin様、Zhan Man Ping様、Lin Wei Ping様、Zhang Gan Chao様、次はホーチミン市のTruong Ngoc Thuy様、Pham Duc Tri様、次はジャカルタ市のHerindarto様、Indra Sukirno様、次は鹿児島市からいらっしゃいました原園政志様、村木健治様、北九州市の寺師道人様、石田謙悟様、田中真百合様、次は、熊本からいらっしゃいました天津信一郎様、マニラからいらっしゃいましたAmalia A.Tolentino様、MA.Corazon A.Tamayao Chiu様、宮崎市からいらっしゃいました古賀淳次様、長崎からいらっしゃいました片岡研之様、大分市からいらっしゃいました草津公明様、足立稔様、佐賀市の坂井猛郎様、江川洋一様、上海市よりいらっしゃいましたShen Jin Min様、Zinati abulikemu様、次は、ウルムチ市よりいらっしゃいましたLi Bo Jun様、Zinati abulikemu様、次はウラジオストックよりいらっしゃいましたVladimir Saprykin様、以上で紹介を終えさせていただきます。今日の拍手で一年は若返ったと思います。

## (2) 基調講演

では、基調講演に入ります。孫大鉉漢陽大学校国際観光大学院院長の講演です。孫院長は、韓国外語大学校スペイン語学科を卒業なさりスペインのマドリッド国立観光大学を卒業なさいました。その後、アメリカのミシガン州立大学客員教授を経て韓国観光協会の会長を歴任されました。孫大鉉院長を拍手でお迎え下さい。

### ● 孫大鉉 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

皆様お早うございます。

皆様にお会いでき嬉しく思います。私は、誰が猫の首に鈴を付けるのかについて、即ち、アジア太平洋都市間の観光交流拡大の代案について申し上げることにいたします。

私が申し上げる内容は、大きく分けて四つに分かれています。

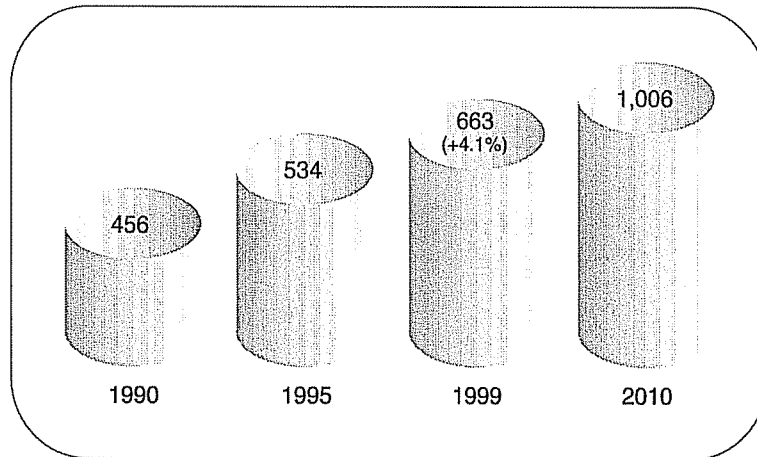
初めに、誰が猫の首に鈴を付けるのかであり、二番目には、観光衛星アカウント、それに、都市観光と言うのは何であるかです。三番目には、アジア太平洋都市間観光交流の拡大の代案は何であるかで、四番目に、アジア太平洋都市間観光協力のモデルとビジョンを提示することに致します。

まず、はじめに、「誰が猫の首に鈴を付けるか」コンタクト・ソフト(Contact Soft)と観光動向について申し上げます。アジア太平洋都市間の観光交流拡大方案は何かと言う主題で、第4回アジア太平洋都市サミット実務者会議を韓国最大の港湾都市であるここ美しい釜山で開催することになりましたことを歓迎致します。アジア太平洋地域は、人口36億人規模の巨大な市場で、活力(Vitality)に溢れた地域であり、世界の観光でもアジア太平洋地域の域内観光は大変重要な役割を担っており、今後もそうであると思われ、戦略的な提携の価値が非常に高いと思います。Prattのコンタクト・ソフトという言葉は、「地理的・歴史的に他の人々と接触し関係を確立させる空間」を意味します。本人が普段考えていた観光のビジョンは、21Cにおいて一番重要なキーワードと言えるグローバルゼーションです。垣根のない世界でいくらインターネットが世界を繋ぎサイバー空間が形成されても、人の移動、国民間のコミュニケーションという人の体の介入は中断されず、恐らく将来民間の交流はさらに活発になると思います。このような課業を達成させるためには、協力が必要です。では、誰がその過程を担うべきでしょうか。それは、今日のような実務者会議です。今回の会議が知識と情報に対する自覚の共有・結合を図るきっかけとなることを願います。

2000年5月、WTOの統計によると、1999年国際観光客の来訪は、[図1]のように6億6千3百万人で前年同期比で4.1%増加し、国際観光収入はUS\$4千5百30億、前年同期比で3%増加、2010年には10億人以上を超えると予想されます。この数字は、[図2]のように通算国際観光客の約10倍を国民観光客数で見た場合、2010年には国民観光客数は、100億人になると推算されます。また、[図3]は1998年、全世界観光経済活動の総量が総需要の面でUS\$4兆4千億で、雇用人口は、直接・間接雇用を含め2億3,100万人で、2010年には、総需要が\$10兆、雇用人口

は3億2800万人になると推算されます。

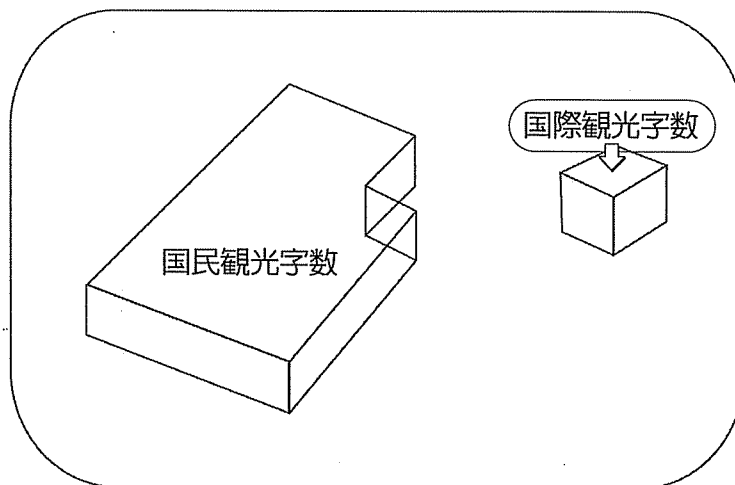
単位：百万



資料：WTO、The Economic Impact of Tourism (Madrid：WTO、1990a)

[図 1] 全世界国際観光移動量

単位：百万

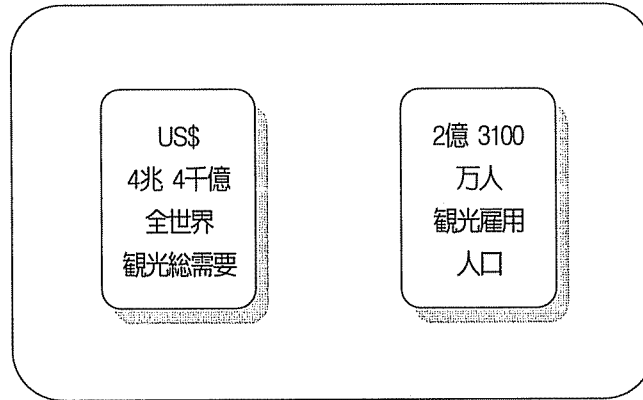


注：2010年国民観光者の数は100億人と推算される。  
国際観光者は氷山の一角である。

[図 2] 国際観光者数の 10倍 = 国民観光者数

全世界観光市場でアジア太平洋地域が占める割合は、観光客の数が2000年の統計で16.9%、観光収入の面では1999年の統計で17.3%となっており、このような増加率は世界でも最高の観光成長率であり、域内での国内・国際旅行も一大ブームになっています。韓国は、国内での旅行人口だけでも年間約3億人で、2000年はOutbound旅行に参加した韓国人が550万人、Inboundの外国人訪問客が550万人で、1100万人以上のInflowとOutflowが起こ

りました。韓国を訪問した外来訪問客の内、アジア国家が占める比率が 1990年には6.8%でしたが、絶えず上昇して1999年には10%を超えました。



注：\$4兆4千億は、1日120億ドルの観光経済活動量を表わす指標で、観光産業は既に世界最大・最高の産業となった(航空旅客機収入を加算すると40%以上増額する)。

資料：WTTC, The Economic Impact of Travel and Tourism Development in the APEC Region (London : UK),1998, p.1.

〔図 3〕 全世界観光経済活動と雇用人口の総量

二番目に、観光衛星アカウントや都市観光と言うのは何か、これについて申し上げたいと思います。

私は、33年間観光学を研究しています。研究をしながら、私なりに「観光」に関する見解を持つようになりました。人の本質は動くことであり、動くというのは見ることであり、見るというのは変化することであり、見る事と変化という事は、密接な関係があると思います。

とにかく、観光は見ることであって、見る対象となるのは本当に多いのであります。例えば、一般の景色(Landscape)、民俗景色(Ethnoscape)、財政景色(Financescape)、技術景色(Technoscape)、そして、メディア景色の(Mediascape)等でございます。即ち、見る事が中心となる観光産業が、今の時代我々に如何なる影響を及ぼしているのか、かつて「人類が体験できなかった20世紀半ばの人類社会に出現した観光現象の大衆化と言う特異な観光衝撃」は、個人と国家の発展・世界文化建設の隅々まで関わり、各ジャンルの発展の原料と栄養分になると思います。

今や、世界の人々は、今までの暗い「閉鎖された心」から「オープンされた心」、「閉塞された世界」から「オープンされた世界」へ活発に進出しながら国際観光を通じて相互交流と相互理解、相互発展が激しく起きています。2001年4月28日、アメリカの百万長者であるDennis Titolは、2千万ドルの莫大な旅行費用を支払って、史上初めての1週間の日程で夢のような「宇宙観光」(Space Tourism Odyssey)を成功裏に終え地球に戻りました。今や、宇宙観光の時代が開きつつあるのです。

このように、観光現象が一般化するとともに、世界各国は、観光が国富を増大させる投資と見ていますが、今まで、

観光を一国の産業として見做すシステムが整っていません。しかし、最近、WTOは、TSA(Tourism Satellite Account) という「観光衛星アカウント」を通じて観光を国民経済から一つの産業として見做す基盤を作っています。観光衛星アカウントは、国民経済の中で観光部門の占める割合や観光産業の波及効果に対する具体的な情報を提供している訳です。このような情報は、観光衛星アカウント作成過程の特徴によって国民アカウントシステムと合った形で構築され、製品の生産と消費、資本の調達と蓄積、そして輸出入等に対する具体的な特徴を反映します。つまり、国民経済システムの内部で観光産業の役割を詳細に究明できるというのが観光衛星アカウント開発の意義だと思います。

2000年5月12ヶ国 25都市が参加した第4回アジア太平洋都市サミットは、都市間の交流と交易の増進・観光産業の育成方法等二つのテーマについて 三つの分科会議で討論を展開致しました。

第4回実務者会議は、1、多数の都市が参加し、観光産業が21世紀の都市発展に最も重要な政策課題として認識されたテーマであるということ、2、釜山市が提案し合意された「アジア太平洋観光振興機構」いわゆるTPO(Tourism Promotion Organization for Asia-Pacific Cities)の創設と連携させてアジア太平洋都市間の観光産業の効率的な発展を図るため「アジア太平洋都市間観光交流拡大方案」をテーマとして採択しました。

ヨーロッパの経済専門家は、20世紀が民族国家の時代であったとしたら、21世紀は新しい都市国家の時代になるであろうと予想しています。昔から首都は国際旅行の基地で、地方都市は国内旅行の基地でありましたが、現在のインターネット時代においては、地方も、世界の中の地方でなければならないのです。スピードの時代に住んでいる現代人には、都市観光(Urban Tourism)や首都観光はその国の政治・経済・社会・文化のセンターであり、歴史都市であるから、その国家のイメージと評判・シンボルと直結した観光であると思います。アジア太平洋地域への旅行は主に都市観光で代表されます。香港、シンガポール、マカオへの旅行も、全て都市観光であり、日本、台湾、韓国への旅行もおおよそ同じであります。

訪韓観光者の約95%が飛行機でソウルに入国しているし、その内約85%が首都圏に滞在すると言う統計がでています。最近のEIUの調査に依りますと、この地域への全体訪問者の三分の二が主要都市だけに泊まると言うことであります。都市観光は、平均的に滞在日数は短いのですが、顧客の回転が速く、Shoppingへの支出が多いために、一般観光の平均滞在費の比重が大きいのが特徴であります。

三つ目に、アジア太平洋都市間観光交流拡大の代案について5つの内容を整理して提示することに致します。

- 1) 協力マーケティングとブランド戦略でございます。アジア太平洋地域は巨大な観光客の受入地であり、巨大な観光排出地域でもあります。一つの国家の観光産業の本質はいろいろな要素が集合された混合体であるアマルガム(amalgam)であり、総合システムであるから要素間の協力が避けられないと言うことで、域内観光にもこの原理が通じるのであります。アジア太平洋観光ネットワーク(Asia-Pacific Tourism Network)の構築を通じて 域内観光は一国別 Mono Destinationから Multi Destination化し、域内国民相互間の交流促進は勿論のこと、域外の遠距離欧米旅行者の誘致増大に大きく活用しなければならないのであります。

このような前提のもとで、各国間の比較優位を競う競争性と補完性を並行させて、対峙関係を維持しながら共同

製品開発と市場開放の相互協力Marketing(cooperative marketing)を駆使するのであります。言い換えれば、個別国の長所を極大化する個別目的地 (Single Destination)で「競争性」とパッケージツアーの長所を生かす「補完性」の調和が必要です。例えば、パッケージツアーのような周遊型とFITツアーのような滞在型観光を並行する政策が望ましいでしょう。

協力マーケティングにおいて優先的に強調すべきことは、ブランド戦略です。観光産業の属性は、感性情緒産業であり、体験産業であって Fictionと文化・芸術産業の性格が濃厚であります。それゆえに、観光者にShowmanshipと言う⑤-要素なしではビジネスが成り立たず、funという④-要素なしではビジネスが存在しないというくらい感動演出が重要です。なぜなら、現代の消費者は、単純な経済の物性より、感性とイメージを好むからであります。このような観点で見ると、観光産業は、多様な観光関連製品を消費者が直接組み立てて体験する事により観光サービスを生産する構造を持っていると言えるのであります。

ニューミレニアムの3つの現象は、第一に、情報の全知全能、第二に、ブランドの卓越性・至高性、第三に、統合Communication(疎通)とEntertainment(遊樂)の遍在性でございます。最近注目されている体験マーケティング(Experiential Marketing)が具体的に実現されたのが Branding 運動であります。既存のビジネス・モデルは物理的資本、即ち施設・商品・経済力をベースにしていたが、既に進行中のデジタル・ビジネスは、資本の変わりに人的資本、即ちサービス・体験・人材をベースにブランド(認知度)と顧客との関係を重視するいわばCRMという Customer Relation Marketingです。

- 2) インターネットを通じたDISとコンテンツの開発です。デジタル時代の全ての都市・製品は、世界的にしなければなりません。そのためには、技術の交換・Know-howの蓄積のために国際協力を強化し他の都市とも緊密に協力すべきです。世界の歴史において、アメリカのような新大陸の発見が富のチャンスだったとすれば、現代人も仮想空間(サイバースペース)と言う全く新しい形態の新大陸を発見したと言えます。全ての物理的な現象と国境を超える仮想大陸であるサイバースペースは、コンピューターと通信技術をもってビジネス・プラットフォームを形成しています。現代の旅行者はブランドをクリックして購買し、顧客体験に関する情報を組織全体が共有し、企業がまた顧客に情報とサービスを提供するハブの役割を担っている、いわゆるe-Businessが21世紀のゴールドラッシュをもたらすと見えています。

このような動向をリードするためには、アジア太平洋都市間の国家、または都市間の観光客に情報を提供するために構築されたコンピューター基盤システムであるDIS (Destination Information System)、国策観光機構(NTO: National Tourism Organization)で運営する観光情報センターであるVIO(Visitor Information Office)、そして、航空座席予約システムであるCRS(Computer Reservation System)網をつなげなければなりません。旅行者の意思決定に助力するために、DISやCRSのようなネットワークを構築するのは、現実的かつ設計的なイシューであります。アジア太平洋地域間のインターネットを通じたDISの確立と、共同関心事であるコンテンツの開発は競争力を更に強化させる

でしょう。短期的には、まず、「情報提供」だけでも可能にしなければなりません。

- 3) グリーン観光と文化遺産観光です。既に全世界を風靡しているグリーン観光、Green Tourismと関連し、TPOも独自の生態観光という最近話題になっている Eco-Tourismのキャンペーンを展開すべきです。今日、他の機関で既に率先して繰広げている次のようなプログラムがあります。WTTC、World Travel Tourism Consult、この機関では、the Green Gloveを採択し、アジア太平洋地域にあるPATAでは the Green Leafを、ヨーロッパでは the Green SuitcasesとBlue Flags Award、APECでは、Green Globe 21を採択しています。今回の実務者会議でも、これと関連し、独自のキャンペーンを繰広げられるスローガンを採択するのも望ましいと思います。

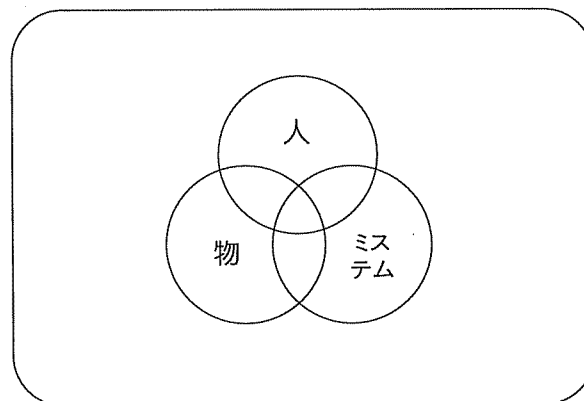
文化観光の側面では、民族観光の一環として「文化祝祭(Cultural Festival)」と関連し緊密な連帯関係が必要であります。この頃、特に英国でブームの文化遺産観光(Cultural Heritage Tourism)がございます。このようなものを地域社会基準(Inter Regional Based Cultural Heritage)として守って行くのも重要だと思います。

- 4) 公私間の戦略的提携とDMO管理です。サービスのレベルを早期にworld class レベルに至るようにするためには、まず、優先的に中央・地方単位の公共サービス(public service)機能が大変重要です。この公共サービスは、観光事業者のレベル向上を刺激し、観光消費者を保護し、社会に及ぼす各種の愕い観光影響を減らすことに大きく寄与しなければなりません。しかし、多くの途上国では、まだ「厚い官僚制」からの果敢な改革が行われず多くの政策的な失敗を繰り返しています。国家の観光の soft landingと多様な付加価値の寄与という側面では様々な戦略を駆使できるはずですが、関連公務員の専門性の欠如と不十分なシステムにより、成果を上げられないでいます。先進国の行政制度のように、政府は政策を樹立し、民間団体、いわゆる協会はそれを執行するといった機能の分離を必要とする改革の時代になりました。我々が早急にこれを採択することによって国際競争意識とローカルカラーを際立たせるためには、民間に多様性と自律性を大幅に許容することにより機敏性と創意性を活かすべきであり、官と民が役割を分担して相互連携することを至急に再調整する「公私間の戦略的提携」いわば、Strategic Public-Private Partnershipが必要だと思います。

多くの国では、まだ NTA(national tourism administration)やNTO、地方政府が観光目的地経営組織体(DMO: destination management organization)としての役割を果たしています。観光地の開発や祭りのようなイベントは、地域社会と地域住民の参加を通じて行われなければ活気を失ってしまいます。1895年に結成されたイギリスのNational Trust運動が全世界に拡散されましたが、これは、市民の自発的な集いでありました。今日、市民社会の公益を目標とする民間主導の非営利機関(NPO: nonprofit organization)の意味ある市民運動がちゃんと機能すべきで、特に、地方都市観光の活性化のために女性の参画が大変重要であり、女性の域内観光を促すため、各種のインセンティブを与えることを提案します。



5) サービスインフラの構築：持続的な訓練と観光ガイドの位相の向上についてお話申し上げます。サービスインフラの構築レベルで一つ提案したいと思います。ホテルの一番重要な要素を三つ上げるとしたら、location location location、マーケティングで一番重要な要素が guest guest guestとすれば、人材開発のためには、持続的な training training trainingが一番重要です。産業は、自ずと教育されるものでなく、絶えず意識化し、訓練と教育が伴う必要があります。観光産業の原材料のベースとなるものは、人、物、システムで、下の図のように人、自然と文化施設、制度と三つをあげられますが、この内一番重要なのは、人です。人材の違いがアジア太平洋観光の差であります。このためには、絶えず教育と訓練が伴わなければなりません。つまり、アジア太平洋地域も他の地域と競争することになりますが、競争力を養えるCompetitive Advantageは、やはりManpowerだということです。また、付け加えたいのは、持続観光(sustainable tourism)のため、観光の第一線で働いている「観光ガイド」の革命的な変化を行い、職業としての位相を高めるべきだと思います。そのためには、正当な月給制の実施、知的な職業としての認識とサービス・プロフェッショナリズムの実現、ガイドに対する厳格な国家管理のライセンス制度実施などを提案したいと思います。



[図4] 人+物+システム関係

WTTCは、21世紀旅行観光の持続的な発展を準備するための世界政府と公私間の提携のため、七つの戦略的な使命に優先順位を定めていますが、これは、我々TPOの集いにも大変参考になる他山の石だと思います。

1. 旅行観光に対する未来を展望し、それが各自の未来となるようにする。
2. 旅行観光の戦略的・経済的重要性を測定し、意志疎通させる。
3. 観光産業が雇用の創出と経歴開発の機会を与えるという側面で肯定的なイメージを促進する。
4. アクセスを容易にするため、市場と航空を開放し、成長の障害を除去する。
5. サービスインフラと顧客需要間の調和を図る。
6. 資本資源と技術の進歩へのアプローチを促進する。

7. 自然・社会・文化に対する責任感を強調する。

等であります。

四つ目の結論です。アジア太平洋の都市間観光協力モデルとビジョンを次のようにご提案申し上げます。観光産業が、この時代に生きている我々に如何なる影響を及ぼしているかは、TSAという観光衛星アカウントを通じた観光産業の確立の必要、21Cは、新しい都市国家の時代を迎え、「都市観光」の重要性を力説しながらアジア太平洋都市間の観光交流を拡大するために五つの代案を提案しました。第一に、協力マーケティングとブランド戦略、第二に、インターネットを通じたDISとcontentsの開発、第三に、グリーン観光と文化遺産観光、第四に、公私間の戦略的提携、第五に、サービスインフラの構築等を主張しました。

このためには、アジア太平洋観光協力体は、これ以上遅くならない内に進路を定めるべきであります。域内都市間は、過去の分散された協力から、現在は力を一個所に集中させる多角的な協力の時代と変わり、また、そのために私たちはここに集まりました。世界と域内の結合というGlobal-Intraregional Nexusも域内都市間networksとnetworkingによってお互い共感できる領域を形成し、互惠の原則による共存共栄(symbiosis)の事業発掘と5つの代案が共に調和をなす新しい観光協力モデルの創出とビジョンを提示しようとした。それで、人流(Tourism)、物流(Transport)と信流(Telecommunication)、いわば3Tを通じて豊かな余裕のあるアジア太平洋地域を再発見することを願います。

21C WITCの新しい観光者に対する12のビジョンをご紹介申し上げながら話を終えたいと思います。新しいタイプの観光者は、

1. より頻繁に旅行。
2. 目的地での滞在期間が短い。
3. 一層洗練された体験追求型旅行者である。
4. 非パッケージ旅行を望む。
5. インターネットを通じて旅行意思決定が行われる。
6. より多くの仮処分所得(disposal income)と旅行体験がより多くの所得を割当てる。
7. より多くの高付加価値の製品とサービスを要求する。
8. より簡素な出入国通関手続きを期待する。
9. 全地球的に有効な安全と安定を望む。
10. 一層冒険的であり一生の思い出となる体験を追求する。
11. 環境にやさしい製品・サービスを好む。
12. 他人と文化に対し共感と過敏性を表わす見通しです。

ともかく、今回の実務者会議を通じて構成員間の相互互恵的な協力共感帯という具体的な成果が達成されることを望みます。

ご静聴ありがとうございました。

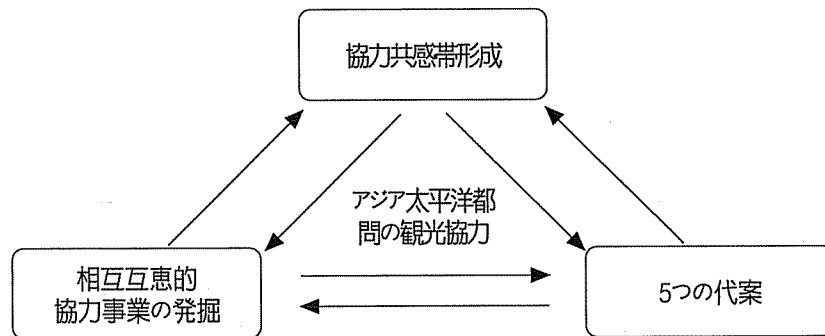


図5. アジア太平洋都市間の観光協力モデル

● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

素晴らしい発表をして下さいました孫大鉉教授に深く感謝申し上げます。

誰か猫の首に鈴を付けるのか。ここにいらっしゃる皆様が観光振興の鈴を付けるべきだと強調されているようです。特に、21世紀の新しい都市国家時代を迎え、都市観光の重要性を力説しながらアジア太平洋都市間の観光交流を拡大するための協力マーケティングとブランド戦略、インターネットを通じたDIS、つまり観光情報提携コンピューター基盤システムとコンテンツ開発など五つの代案を提示して下さいました。本会議に参加していらっしゃる都市代表の皆様が力を合わせて下されば、良い結果が出ると思います。

先生の講演の内容について質問などがございましたら質問して下さい。恐らく、昨日到着され、今日早朝から会議に参加されて多少緊張した雰囲気ではないかと思います。そして、一つお詫び申し上げたいのは、資料を先に配布していたらもっと多くの質問を期待できたかも知れませんが、資料を前もってお配りできなかったこと、お詫び申し上げます。資料は、午前中にコピーして皆様にお配り致します。ご了承下さい。

では、指名して質問を承りたいと思います。

バンコクは、観光が活性化されていると存じ上げております。今日、バンコクから三方が参加して下さいましたが、大変熱心に聴いて下さっております。Chanchai Rohitasiri さん、質問をどうぞ。

● バンコク ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

Chanchaiさんのかわりにお話申し上げます。まだ質問はありません。なぜなら、基調講演と私の話の内容がかなり似ていると思います。だから、後で発言します。

● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ありがとうございます。会議が早く進行されているようです。では、緊張をほぐすため、各都市に30秒ずつ都市の紹介をしていただきます。バンコク市、お願いします。

## ● バンコク ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

こんにちは。バンコクを紹介します。バンコクは、タイの首都です。皆様もご存知のように、タイは、東南アジアに位置しております。タイは東南アジアに位置している国家で、地図をみると卵形になっています。

私たちは、東南アジアに位置しており、また、二つの大洋の間に位置しています。タイの左にはビルマ、右にはラオスとカンボジアがあります。また、北には中国があります。タイの位置についてお話申し上げましたが、タイを紹介すると、多くのヨーロッパ人は、台湾と間違えるようです。タイと台湾は違うという意味で位置の説明をしました。

そして、バンコクはタイの中心に位置している首都です。都市化が進み、都市化と関連した多くの問題があります。まずは、交通渋滞と梅雨の洪水です。十年前バンコクは汚染がひどい街でしたが、今はかなりきれいになりました。また、これを維持するために努力しています。私たちが環境をきれいにするため努力し、そうすることにより観光客をより多く誘致するために努力しています。

現在、毎年観光客が増加しているために私たちは勇気を得ています。バンコク以外の他の都市を推薦するなら、プーケットとチェンマイのような都市もあります。これらの都市も大変魅力的です。ありがとうございます。

## ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

30秒間の紹介をお願いしましたが、30分くらいされたいです。バンコクの観光が進んでいる理由が分かりました。釜山は、皆様が実際にここに滞在していらっしゃるのので省略させていただきます。次は大連、30秒間をお願いします。

## ● 大連 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

はい。本日、この会議に参加できたことを嬉しく思います。大連市の紹介をしたいと思います。大連は、遼東半島の最南端に位置し、黄海と渤海に近いです。温帯気候で四季がはっきりしており、冬にも寒さが厳しくなく、夏も暑くなく東北地域で一番暖かい所で、年平均気温は約10度で、中国の北方地域で一番重要な地域であり、総面積は1.25万平方メートルで、人口は約250万人です。大連は、環境保護においても一番先立つ都市で、国連から、中国の国内では唯一環境保護の先導型都市と認められ、また、人間居住賞も受賞しました。2000年6月には、世界環境500大都市にも選定されました。

都市の特徴は、海を背景にしたグリーン都市と言えます。美しい都市企画として、大型観光を基盤に特色のある観光とファッションの都市として、そしてサッカーとスポーツの都市として若さと活気が溢れる街です。都市建設概念は、規模を追求するのではなく、最高を追求することです。大連の都市建設企画目標は、ガーデンの建設ではなく、市をガーデンの中に作ることです。現在、大連市は、緑地が一番多く、また、海と美しい調和を成しています。大連市は、三面が海なので、海産物が大変豊富です。

大連市は、毎年様々な文化祭や観光祭を通じて、例えば国際ファッション祭り、花祭り、そして爆竹祭り等の文化祭を通じて、外国観光客を多く誘致しています。また、大連の経済発展にも寄与しています。21世紀の大連市は、観光産業を重視し、観光産業に一層力点を置いて発展させていくつもりです。ありがとうございます。

## ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ありがとうございます。大連市の主任 Li Bo Zhouさんでした。大連は、最近急浮上している都市です。次は、アジア太平洋都市サミットを創設し今までリードしてきた福岡市の福本隆之国際部長、お願いします。30秒は短すぎるので、1分程お願いします。

## ● 福岡 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

一分の時間を下さいましてありがとうございます。福岡市は、釜山市と海を隔てて200キロ離れている都市です。人口は134万人で日本西南部の中心地域です。だから、航路・鉄道・陸上など、交通の要衝の地であります。そして、産業構造的には、3次産業である卸売業が中心の地域です。そして、北側には博多港という港湾が玄界灘と接しており、南には山と山脈に囲まれそれこそ自然景観が優れ、山海珍味も味わえる地域です。そして、相当な数の大学が密集し、若い地域とも言えます。

そして、本日のテーマである観光と関連してお話申し上げますと、毎年 5月3-4日に「ドンタク」というお祭りがあります。市民みんなが参加するお祭りで、日本全国各地から200万人の観光客が私たちのお祭りを見るために訪問します。日本でも一番大きな規模のお祭りの一つだと言えます。以上です。

## ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

次は、広州市の Li Zhi Xin先生、お願いします。

## ● 広州 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ありがとうございます。広州は、河南地域の中心地で、商業・観光の都市として2100年余りの歴史を持っています。シルクロードが始まる所で、現在の人口は約一千万人です。今年の下半期には、観光と関連し大きな行事が計画されています。ここには、大規模の花祭り、お酒祭り、食べ物のお祭り、そして様々な有名なお祭りがあります。是非広州にいらして下さい。

## ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ありがとうございます。広州にみなさん訪れて下さいという話で、大変短く簡潔に話して下さいました。ありがとうございます。次は、ホーチミン市の Truong Ngoc Thuyさん、お願いします。

## ● ホーチミン ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ホーチミン市から参りました。ホーチミン市は、ベトナムの大変大きい都市の一つで、文化、経済、そして観光が発達し、人口は約700万人です。東洋の中心、東洋の真珠と呼ばれています。ホーチミン市にいらっしやれば、ホーチミ

ンの文化と自然環境、東洋と西洋の文化が融合した姿をご覧になられます。しかし、そういった状況にもかかわらず、アイデンティティを失っていない、立派な地域だと思います。

ホーチミン市にいらっしゃれば、市民に歓迎され、また、立派なベトナム料理を味わえます。従いまして、皆様全員ホーチミン市にお招きしたいです。ありがとうございます。

### ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ありがとうございます。二方が、お一人はベトナム語で、もう一人は英語で発表して下さいました。見事なパートナーシップです。ありがとうございました。次は、ジャカルタのIndra Sukirnoさん、お願いします。

### ● ジャカルタ ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ありがとうございます。皆様、こんにちは。インドネシアのジャカルタから参りました。ご存知の通り、ジャカルタは、インドネシア共和国の首都で、インドネシアと観光は大変緊密な関係があります。多くの方々が、インドネシアと言えば、バリ島のみを思い浮かべることと思います。バリ、有名なリゾートです。しかし、私は皆様にジャカルタをご紹介申し上げたいと思います。

ジャカルタは、過去3年間大変人気のあるリゾート地で、皆様も多くの広報資料を通じてご存知とは思いますが、インドネシアへのゲートウェイとして、インドネシアの他の都市に向かうためのハブの役割を果たしています。ジャカルタは、オーストラリアとアジアの他の地域の中心地にあると言えます。

人口が1200万人、面積は650平方メートルで、二つの小都市で構成されています。ビジネスでジャカルタを訪れる方も大勢います。過去6年間、ビジネスで訪問された方が多く、会議と展示が多く開催された都市の一つで、我々もこのように会議、展示会、ショッピング、ゴルフ旅行を誘致するのに力点を置いています。また、ジャカルタは、毎年展示会を誘致してきました。それで、展示会とコンベンションの区域が形成され、この分野に対する広報活動を数多く進めてきました。

私が釜山に来る前に、同僚にこのような話を聞きました。韓国は静かな朝の国で、金さんが多いということです。しかし、金さんだけでなく、安さん、李さん等にも会いました。私は、韓国に行ったら、金さんにしか会えないと思っていましたが、他の名字の方にも会えました。ですから、やはり人の話を聞くだけでなく、直接行ってみるのが重要だと思いました。金さんだけでなく、他の名字の方にもお会いできて嬉しいです。

ありがとうございます。

### ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

Indra Sukirnoさんは、昨日からキムチの話をされてました。お昼の時にキムチを沢山召し上がっていただきたいと思っています。次は鹿児島市です。

## ● 鹿児島 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

日本の鹿児島から参りました。鹿児島市は、日本の九州地方の南端に位置し、人口55万人の都市です。日本ではそれなりに大きな都市ですが、この会議に参加してみると、ジャカルタ市など大変大きな都市が沢山あり、鹿児島市は小さい都市に属するということが分かりました。鹿児島市は、年平均気温が約18度で、錦江湾という美しい海を挟んでおり、桜島には世界有数の活火山もあって自然景観が優れた街です。

また、温泉も多く、市内の至る所に温泉があり、韓国からも毎年大勢の観光客が訪れて下さいます。鹿児島市も歴史が深い地方なので、観光都市として今まで多くの観光政策を繰広げ、年間230万人の観光客が訪れます。ただ、残念なことに、この内外国からの観光客はわずか年間10万人にすぎないので、このような機会を通じて鹿児島の観光を一層発展させていきたいと思えます。スーパースタートラス号が毎週鹿児島と釜山を行き来しており、多くの日本人が釜山での観光を楽しんでおります。今回の博覧会に鹿児島も出展しました。この機会に、皆様に鹿児島をPRして参りたいと思えます。宜しくお願いいたします。

## ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

釜山の人々は、鹿児島と言えば、温泉を思い浮かべます。そして、おっしゃいました通りクルーズも運行されています。ありがとうございます。では、今度は、国際博覧会が開催されている北九州市、お願いします。

## ● 北九州 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

北九州から参りました。北九州市は、皆様もご存知の通り、日本でもアジアに一番近い都市です。今日、大連市から李主任がいらして下さいましたが、大連市と北九州市は友好都市です。また、韓国の仁川市とは姉妹都市です。北九州市は、人口が約100万人で、所謂産業都市として発展してきました。最近、観光政策にも力を入れ、スペースワールドと先ほどご紹介がございました北九州博覧会等を通じて年間観光客数が約1千万人を超えました。現在、世界的に都市間で競争が繰広げられる時代だと言いますが、観光というテーマは、各都市が協力するにおいて一番良いテーマではないかと思えます。孫大鉉教授のお話にもございましたが、インターネットを通じた観光情報交換は、これからも重要な事業になると思えます。今日の会議に大いに期待しております。

## ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

時間が5分しか残っておりません。では、また、30秒ずつ発表して下さい。熊本市、お願いします。

## ● 熊本 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

熊本市を紹介します。熊本市は、九州の中央に位置している都市で、人口は約66万人です。東には、世界的にも有名な活火山の阿蘇山があり、西には、二つの公園があります。都市の特徴をお話申し上げますと、熊本市は1607年

に造成された熊本城を中心に発展した都市であり、2007年までこの城を当時のように復元する計画です。また、熊本市は、環境に重点をおいた市政を繰広げ、市内に路面電車が走っています。この路面電車は、環境にやさしい交通手段です。また、障害者など、体の不自由な方も乗れるように高さを調節した電車も走っています。また、熊本市は、飲み水を全て地下水でまかなっております。66万人規模の人口を地下水でまかなうのは、日本でも希です。

残念ながら熊本市には、国際空港ターミナルはありますが、定期路線はありません。チャーター便などは直接熊本に入りますが。しかし、福岡市を通じて入れば、福岡から列車で1時間20分、バスを利用すれば2時間で来られますので、熊本にも多くの方が訪れて下さることを願います。

### ● 議長 ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

ありがとうございます。そろそろ時間になりました。残りの都市は、また時間を割愛してお話を伺いたいと思います。今から10分間、コーヒープレークです。コーヒープレークの後、皆様の発表を承りたいと思います。

コーヒーをお飲みになりながら楽しくご歓談下さい。海雲台は、三つのS、スリーSの都市です。今日も天気が良いですが、良い天気を意味するSun、そして、皆様はパラダイスホテルにお泊りですが、ホテルの前には、快適さで有名な海岸のSandがあります。また、太平洋につながる海、Seaがあります。このように三つの要素を備え持った海雲台の景色をご覧になりながらコーヒーをお召し上がり下さい。